

～ この大不況を乗り切るには… ～
どうするか。

BIZにとって好況の時があったのかも記憶にない。だから不況も大して感じない。でも世界の現実はある。まず香港ジュエリーショーをキャンセル。世界のショーの再検討、しかし疑問も残る。デザイナーズギャラリーというのは出展条件も厳しいが、ウェイティングもいっぱい。なのにどうして私がパスしたの？



国際宝飾展会場
BIZ ブース

1月国際宝飾展期間中、食事もほとんどままならない。この現象“ほめ殺し”と私は云う。誉めるだけで買って欲しくない。本来、収益を見込んでの出展ではない。いかにBIZの賛同者を得るか。“今こそBIZの時代”とまで云って下さる方もいる。会場で考えた。島田本来の作りたいものを作る、それで良いのだ、と。小賢しく受けねらいで作ったものには心に響く力がない。女性がお好みのジュエリーを見た時の一瞬の輝く表情、これが得られないようなものを作ってはいけない。

後日談：時折、家庭菜園の大根、芋、お花と置いていつてくれる。ある時は、薔薇の花に埋もれて風呂につかった。これぞ天国気分！嬉しいではないか！で、BIZに大不況はいつ来るのでしょうか？

～ 鬼おろし ～



大根おろしは毎日でもOKの私。外出の折のランチは、おろし蕎麦と決まっている。いつかのお店、まだ辛味大根の季節には早いので“鬼おろし蕎麦”にした。以来、この鬼おろし大根にハマっている。ザクザクぶちぎり状態。美味な蕎麦と合わせて清新、力強い。これぞ日本の食べ物！ さっそく鬼おろし板を求めた。以来、何にでも鬼おろし大根が加わる。納豆、鍋物、だし巻き玉子、etc、最高、日本の家庭食！

～ ジュエリー簡単史 ～

16才のマリー・アントワネットにお見合い画が届けられた。将来のフランス王が農民と共に作業に励んでいる姿。これは表向き。結婚してみると后より夫の方がジュエリー大好きだったということだ。

その昔、ジュエリーは禍いからのお守り、それと迷信によるものが多かった。戦に向かう男達はよろいの胸にサファイアを埋め込み、襟元から魔物が入らないようネックレスをし、薬指のリングはそこにつながる心臓を守った。だからほとんど男達の為のものだった。その後、中世では主に教会の典礼に使われた。王冠、正装用の大きなネックレス、リング、杖、等々。これも男性用。女性もつけたがずっとおとなしい。何たって第一権力者ではないのだから。王室や教会専属金細工師は主に修理だけをさせる目的で弟子を訓練した。その弟子達から技法が広まり、ついにジュエリーはルネサンスで花開いた。貴族達は次第にその豪華さを競い、故に自分が目立たなくなってしまう、との危機感でその使用禁止令を出した王様もいたらしい。権力を保つのに、こんな努力をするというのも、何やら哀し気な王様ではないか。



全身ジュエリーに包まれ
リングは片手で3本



シャルルマーニュの
魔よけ
(ランス大聖堂)

～ 職人さんの嘆き ～

“修理で預かるジュエリーの汚いこと！もっと綺麗に使って欲しいのに。”リングの隙間は米粒まで詰まっているそう。ちなみに島田は手を洗う時、化粧の時リングは外します。入浴時はトーゼンです。化粧品の油、薬品。お風呂の中では垢を吸い集めているようなもの、と思いませんか。

彩の海

あや

海の中は彩の世界
沢山の生き物と清い水が
それを織り成す



リング
オパール エメラルド
ルビー ダイヤ
K18WG